

多様な考えに触れながら、考えを深めていく道徳の授業

神奈川県川崎市立下小田中小学校 教諭 宮里 大希

小学校6年 道徳 ココロ部！

番組の特徴

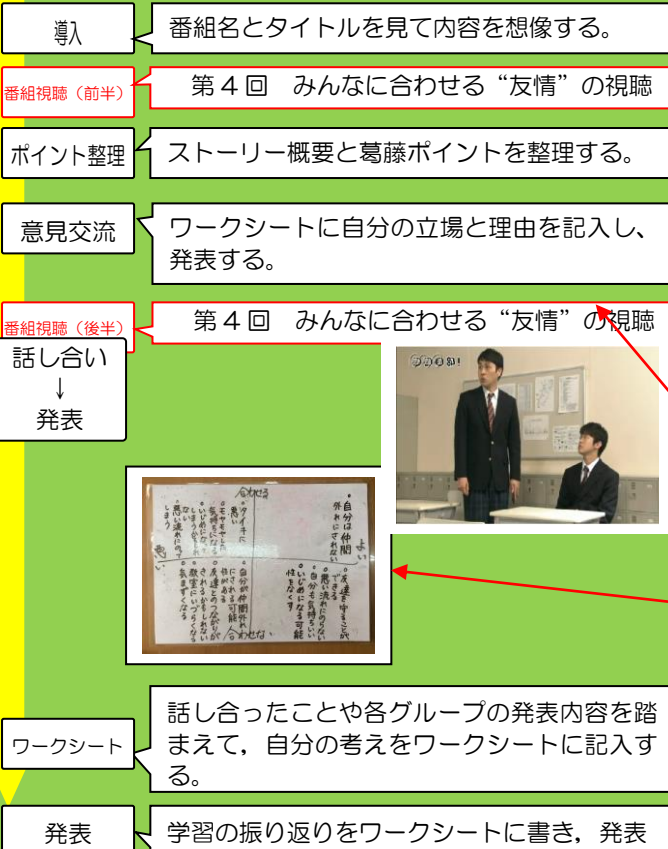
小学校高学年を対象にし、日常生活で起こり得る葛藤場面をストーリー仕立てで展開。場面を区切り課題や葛藤ポイントを整理しながら、「君ならどうする」という問いで終わるオープンエンド型で、子どもたちの考えを揺さぶる番組である。

研究の概要

根拠を明確にししながら自分の意思を決定するために、道徳教材「ココロ部！」を活用した継続的な取り組みを行った。具体的には、1単位時間の冒頭で番組を視聴し、葛藤する場面で「自分ならどうするか」ということを考えさせた。思考ツールを取り入れた話し合いをすることで、共通する意見や異なる意見に触れながら、自分の考えを深めていくことができた。

授業デザイン

主題名：本当の友達・友情とは 2-(3)
ねらい：互いに信頼し、学びあって友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。



番組や関連動画クリップの活用意図

映像による、より具体的なイメージ把握

映像の中での会話や表情から「自分なら・・・」という児童の思考を図書資料活用時より掻き立てられ、具体的なイメージをもつことができる。それにより、問題意識が高まり、より自分ごととしてとらえることができる。

完結しないストーリーが自然な話し合いを生む

番組の中で、ストーリーは完結しない。「君ならどうする？」の問いかけで終わることで、自然と考え、友だちと話し合いたくなる雰囲気を作る。

授業デザインにかかわる教師の工夫

話し合いの場の工夫

番組を前半と後半に分けて視聴することで、前半視聴後、児童一人ひとりが下した意思決定に揺さぶりをかけた。そのことによる、話し合いの活発化を目指した。また、グループで話し合う際に、「1人1意見は必ず発表する」という条件を設けることで、児童が発言する場を保証した。

思考ツールの活用(田の字チャート)

グループでの話し合いに思考ツール(田の字チャート)を用いた。意見を視覚化することで情報を整理しやすくし、話し合いの円滑化を目指した。また、様々な立場での状況を考えることで、多面的に物事をとらえ、自分の考えを見つめ直せるようにした。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの自己評価から

- 友だちに「合わせる」「合わせない」どれも友情だけど、本当の友情が何かをじっくり考えることができた。
- 友だちとの仲を深めていくためには、自分の考えをしっかりと主張することが大切だと思った。

評価シートから(実践前後で有意差がみられた9項目(全17項目)より抜粋)

- 「じっくりと考えて、自分の考えを深めることができた。」
- 「自分の気持ちにあてはめて考えることができた。」

同僚の評価

- 「君ならどうする」の問題提起で終わることで、子どもたちが自然と考え、話し合いを始める様子がうかがえた。

実践を終えて<行動宣言>

児童はこれまで、番組のテーマをもとに道徳的価値について考える活動を経験したことがなかった。そのためもあってか、番組を食い入るように視聴し、テーマに沿って一人ひとりが考えることができた。互いの考えを話し合う中で多様な考えに触れ、より深く考える姿が見られた。現在、学年全体で本番組を活用しながら「考える道徳」の実践を模索している。道徳的価値について、多面的・多角的な見方をしながら自分自身の考えを深めていけるように今後も効果的な活用を図っていきたい。